



来年度の準備にセンターの取組を活用してください!

1 「特別の教科 道徳」実施に向けて

学習指導要領の改訂に伴って、**小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から「特別の教科 道徳」が実施**されます。そのため、教科書の使用や評価の方法など、これまでとは様々な点で異なります。来年度の準備に向けて、この機会に確認してみましょう。

全体計画や別葉の作成についてはハンドブックのP8、9に載っているよ!



資料はこちら

総合教育センターホームページITEC

教育コンテンツ

道徳教育

「特別の教科 道徳」全面実施への準備

実施に必要な準備物

- 道徳教育の全体計画
- 道徳教育の全体計画別葉
- 道徳科の年間指導計画(学年別)

全体計画や別葉の作成には行事や他の教科・領域との**横断的なつながり**を意識する**カリキュラム・マネジメントの視点**が重要です。また、評価の方法などについても方針を作っておくことがスムーズな実施につながります。

出前講座でも「特別の教科 道徳」実施をサポートしています。

2 小学校外国語教育の実施に向けて

社会の急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実が求められています。こうした背景のもと、**平成32年度から、小学校では5～6年での外国語の教科化と3～4年での外国語活動が全面実施となります。**



出前講座では教科教育のほか、道徳や情報教育など**幅広い内容の講座**を実施しています。**学校を離れることなく、先生方の共通理解を深めることができる、絶好の機会**ですので是非御活用ください。また、**教育委員会、研究会単位でも出前講座を実施**しています。

受講者の感想から

中心発問の作り方や分析の仕方を具体的に学ぶことができた。教員全員が共通理解できてとても有意義でした。

(小学校道徳教育講座)



出前講座 11月から受付開始!

小学校外国語教育講座(新規開講)

是非、御活用ください!

※内容など詳細は総合教育センターホームページITEC等でもお知らせします。



今年度出前講座実施状況(9/26現在)

- ・**受講者数** のべ **3,443名** **出前実施数** のべ136件
- ・**講座内容例** ※内容については事前に打合せた上で行います。
 - ・「特別の教科 道徳」の全面実施に向けた授業づくり(小学校道徳)
 - ・「話すこと・聞くこと」における学習指導について(小学校国語)

出前講座の申込方法は「研修講座の概要」P14を御覧ください。

困難に立ち向かい、堂々と発表する「挑戦者」たちに感動

第13回京都府高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会



9月14日(木)総合教育センター講堂にて「**第13回京都府高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会**」が行われました。「**初任者研修『中学校・高等学校総合的な学習の時間、キャリア教育』講座**」で本大会を聴講し、15名の堂々たる発表からキャリア教育が「**生き方を考える教育**」であることを再確認しました。

初任者の感想から

堂々と発表している姿にとっても感動した。どの生徒も困難を経験しているに関わらず、それをばねに新しいことに一生懸命挑戦しているのが伝わってきた。その挑戦を支えるのが我々教師の仕事であることを改めて実感した。

発表者の「人生を取り戻そうとする姿」を通して感じてもらいたいこと

定時制や通信制の高校は、夜間であったり、分校であったりとその形態が一般的でない場合も多く、教員であっても意識して見ようとしなければ、実態がよく分からない学校かもしれません。しかし、そこでは中学校までに不登校を経験した生徒や、全日制高校を続けられなかった生徒、基本的な学習習慣が身につけていない生徒、発達障害のある生徒、心の病を乗り越えようとする生徒、生育環境に恵まれなかった生徒、日本語を母語としない生徒、高校で学ぶタイミングを逃していた成人生徒など多様な生徒が学んでいます。定通制で学ぶようになった事情は様々ですが、共通して言えることは、それぞれの困難さを抱えながら新たな場所で自分の人生を取り戻そうとしていることです。定通制の高校では、中学校にはほとんど登校できなかった生徒が、皆勤で卒業していくことも珍しくはないのです。

このように様々な課題を抱える定通制の生徒も、普段から自分の置かれた環境の厳しさを口にしているわけではありません。その意味でこの大会は、定通制に通う生徒たちが自分の過去と現在を冷静に振り返り、本当の心の底を垣間見せてくれる貴重な機会と言えます。初任者の皆さんには、自校に来なくなった生徒たちも実は場所を変えて苦闘を続けていることや、自尊感情が高いとは言えない彼らの再起を支えるためには柔らかくして細やかな対応とカウンセリングマインドが不可欠であることを、心に刻んでいただくと幸いです。

(大会運営委員長 辻上 博 鳥羽高等学校定時制 首席副校長)

「SWOT分析」で地域とともに学校づくりを!

地域とともに歩む「学校内外環境分析」講座(8/24)

講師: 滋賀大学教職大学院 大野 裕己 教授

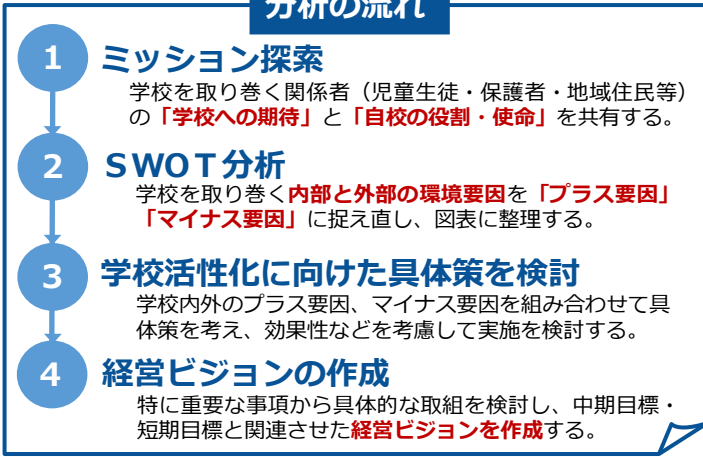
子どもたちに、新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力をはぐくむためには、学校が開かれた環境となることが不可欠である、という観点から新学習指導要領において「**社会に開かれた教育課程**」が重視されています。

本講座で学んだ「SWOT分析」は**組織内外の「プラス要因」「マイナス要因」について整理**し、組織の活性化につなげる分析方法です。新学習指導要領で重視されている**カリキュラム・マネジメントの実現**につなげることができる上に、外部の資源を考えることで**地域との連携を意識づける**動機にもなります。



大野 裕己 教授

分析の流れ



	外部要因	内部要因	具体策
プラス要因	支障的に動く場合 【Opportunity】	強み 【Strength】	特色づくり
マイナス要因	阻害的に動く場合 【Threat】	弱み 【Weakness】	

《SWOT分析例》

留意点

- ・学校内外の**積極面を生かし**、現状を無理なく引き上げる。
- ・言語化・図表化等の「**見える化**」を重視する。
- ・**因果に着目し**「なぜ」「なにを」「どのように」を考える。

心で感じたことは、自ら動き出す力となる

初任者・新規採用者研修共通「京の伝統文化体験」講座

講師: 京都伝統工芸大学 新谷 由貴代 校長
工藤 良健 教授



工藤 良健 教授

この研修は「**ふるさと京都**」について学ぶことを目的に実施しています。午前は「ものづくりを通じた社会貢献とキャリア教育」について、工藤教授から講義いただきました。

また、午後からは陶芸や竹工芸、和紙工芸等のものづくりを体験し、**歴史の重みや高い技術といった京都の伝統文化の魅力**に触れました。

まずは教員自身が様々な体験から「感動」すること。その感動が子どもたちの豊かな学びにつながることを実感した一日でした。



自分が学び、感動したことを、子どもたちに伝えようと思います。京都の素晴らしい文化や伝統を子どもたちにも知ってほしいと思いました。指導者の方の「思い」も実践の中で伝えたいです。

教育相談シリーズ連載 不登校の未然防止と支援③

チーム支援

「今、できること」「支援のスタンス」に続く、教育相談シリーズ連載第3弾は「**チーム支援**」です。不登校の未然防止と支援のためのチームの在り方について紹介します。

方針の決定

まず、必要なのは**見立てに基づいた方針の決定**です。コーディネーターを中心にケース会議などを開き、情報を共通理解した上で**支援の方向性**を見つけていきます。

それぞれの役割で対応

学校では「**複数の強みを生かす**」ことができます。チームの教師が父親的な役割、母親的な役割、お兄さん・お姉さんのような役割を果たすことで**多面的な関わり**等が可能になります。子どもはそれぞれに違った反応をするかもしれませんが、それもその子を理解するための貴重な情報となります。



寄り添いのスタンスで

保護者との連携は重要です。「我が子の不登校はいつまで続くのだろう」という不安や「自分の子育てが悪かったのだろうか」という自責の念に駆られ、憔悴しておられる保護者は少なくありません。そんなとき、「一緒に考えましょう」と**寄り添ってくれる教師の存在**は心強いものです。保護者の意向や本人の状態や気持ちを十分に理解し、**方向性を一緒に考えていく**ことが望めます。

援助資源を考える

その子の周囲に**どんな援助資源があるか**を考えておきましょう。専門機関とつながることが効果的な場合もあります。保護者や子どもが「相談に行ってみよう」と思ったときに紹介できる資源を知っておくことは大事なことです。

関係機関とのつながり

関係機関とのつながりができた場合、その機関も含めた**チームとしての連携が必要**となってきます。保護者の許可を得てその機関と連携し、情報や方針を共有することは、子どもにとってよりプラスの効果ははたらくでしょう。

情報の整理で支援の具体化へ

チーム支援を進めるにあたっては、情報を整理し、支援の具体を検討するために「**支援シート**」を活用するのもひとつの方法です。下に示すシートを参考にしてみてください。

【参考】

『児童生徒理解・教育支援シート(試案)』
児童生徒の教育相談の充実について
〔平成29年1月 文部科学省〕